

島根大学・まち・人がもっとつながる

SHIMADAI

広報しまだい



SHIMANE
University

2018.4

vol. 36

特集

[しまだい's サークル]

「昨年を超える」をスローガンに

アメフト部 中四国リーグ 2年連続優勝

学長スペシャル対談

地方創生に向けて一地方大学が果たすべき役割

こころと健康の両面で地域を支える

地域貢献を目的としたセンターの設置

学長スペシャル対談

地方創生に向けて地方大学が果たすべき役割

地域の知識や

文化の中核であり、

産業発展の

拠点となる大学に

大学の大都市集中を避け、高等教育の機会均等を実現するため一県一大学“の原則で設けられた新制国立大学。島根大学も1949年の開学以来、地域の知識と文化の中核を担ってきました。一方で私立大学の増加や社会の成熟化を背景に、国立大学にはよ

り個性と存在感が求められてきました。地方大学による地方創生もその一つです。地域貢献人材の育成に意欲的に取り組み続ける服部泰直学長と、地場産業を支援する島根県商工会議所連合会の古瀬誠会頭が、地域活性化に向けた思いを語り合いました。

地域に貢献したい人を
大学と地域が共に育てる
人材育成カリキュラム

服部学長(以下学長) 島根県唯一

の国立大学として、最も大きな課題は地域振興にいかに関与できるかだと考えています。毎年約1000人の新生生のうち、県内出身者は約25%、県外は75%ですが、卒業後の就職先もほぼ同率で、3割が県内、7割が県外です。この数字には二つのポイントがあります。地方大学で入学者の県内出身者が25%というのは全国的に見ても低く、もっと上げたい。



島根県商工会議所
連合会会頭

Furuse Makoto

古瀬 誠

■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

- ①生物資源科学部 児玉 有紀 准教授 11
- ②こことそだちの相談センター 高橋 悟 准教授 13
- ③地域包括ケア教育研究センター 磯村 実 教授 15
- 地域貢献を目的としたセンター紹介 17
- しまだい便り 19
- キラリ島大生 22

■しまだい's サークル 23

- 島根スサノオマジック活動紹介
島根大学支援基金寄附者一覧
読者プレゼント 26



島根大学 学長

Hattori Yasunao

服部 泰直

小さい規模だからこそ ニーズにマッチした 地域貢献が できるのです

一方、県外出身学生にもっと島根で就職してもらいたいですね。

古瀬会頭(以下会頭) 我々も相当な労力をかけて企業説明会やインターンシップをしていますが費用対効果が少なく、悩んでいます。そんな中、島根大学が導入した「地域貢献人材育成入試」は素晴らしい。現在60人の定員だということですが、地方大学の役割を考えたら、割くらは許されるのではないのでしょうか。

学長 全ての学部で地域出身者・

地域就職希望者を一定数受け入れるという試みは、国立大学では全国初です。地域貢献人材育成入試は、山陰地域の活性化に貢献しようとする強い意欲のある高校生を受け入れるものです。先ほど県内出身の入学者を増やしたいという話をしましたが、そのためには島根の大学進学率自体も上げたいと考えています。中山間地や離島における高校も含めて、大学での学びの実態や意味を理解してもらおう活動を強化したいと考えています。全国平均レベルに進学率を上げていけば必然的に入学者も増えるはずですよ。

文化や知識の中核であり 産業発展の拠点となる 地方国立大学

会頭 地方大学の存在価値について、高校の先生たちに訴えていく必要はあるでしょうね。大抵は偏差値だけで進路を決めますが、本当にそれだけで良いのでしょうか。県内でも特に中山間地には人材が少ないですが、リーダーがいれば地域

島根大学・まち・人がもっとつながる

SHIMADAI

広報しまだい

2018.4
vol. 36

【特集1】

学長スペシャル対談

島根県商工会議所連合会会頭 古瀬 誠 氏 01

【特集2】

島根大学の国際交流

①産学官連携によるインド・ケララ州との交流事業 05

②留学生・留学体験紹介 09

は変わります。地方の大学を出て地方の企業や役場で働いてほしい。地域貢献の意欲はあるのに、県外の大
学に出て行ってしまっている学生がい
るのは非常にもったいない。

学長 大学は、人材を育成する役
割を担う教育機関として、しっかり
人材を育てて地域に送り出していく
とともに、地域が抱える課題の解決
に向けた研究、調査することによつて
も貢献していきたいと考えています。
大学の視点からの地域貢献ではな



古瀬 誠

1946年生まれ。島根県松江市出身。1969年4月に山陰合同銀行に入行。2007年6月に山陰合同銀行取締役頭取に就任し、2010年11月には島根県商工会議所連合会会頭就任。2015年6月より山陰合同銀行特別顧問。島根の音楽文化普及拡大にも尽力し、「島根第九をうたう会」の会長を務める。

く、地域の声に真に応える貢献を目指します。島根県は全国2番目に人口が少なく、大学も小さい。しかし小さい規模だからこそ、ニーズにマッチした地域貢献ができるはずです。

会頭 大学というのは、地域の知識や文化の中核を担うとともに、地域の産業発展の拠点でもあつてほしいです。島根大学は、学部を超えて課題解決型研究を行う「プロジェクトセンター」を14も開設され、「たたらナノテク」「自然災害軽減」など地域に密着した学際的な活動をされています。ただ、知名度はそこまで高くないのが残念です。地域の課題に寄り添うなら、もっと行政から負担金をもらつて結果を出していく方がいいのではないのでしょうか。

学長 確かに「サービシ的な貢献」では限界があり、ダイナミックさに欠ける部分があると思います。企業や自治体との共同研究などは従来からしていますが、取組みをさらに進めて結果に対して対価がきちんと出るような仕組みを作つていきたいと思つています。

会頭 全国的には大学進学率が約6割に達し、最高学府の価値が後退している中、大学のあり方も切り替わつていかねばなりません。世界と争うような研究も必要ですが、もっと地域に深く関わることも大事です。

このたび地域社会からのニーズが高かつた、理工系の人材育成を強化する組織改組は非常に注目しています。また海外留学と地域企業でのインターンシップなどを組み合わせた事業にも期待しています。

学長 理系学部・大学院の改組によつて、地域や現代的課題に対するより高い研究能力と課題解決能力を養う教育を行います。「トビタテ！留学JAPAN」は国が進める留学キャンペーンですが、「地域人材コース」は地域が主体となつて事業を運営しており、島根独自のプログラムを展開しています。
一方で大学には地域における文化の香りを醸成することも大切です。文学や芸術のように「一見生産性がないと思われる分野も、豊かな人生を送る上で欠かせないものです。社会が持つ文化への憧れに対し



服部 泰直

1956年生まれ。1993年4月島根大学理学部助教授、1995年6月島根大学理学部教授、同年10月島根大学総合理工学部教授、2011年10月島根大学総合理工学部長、2012年4月島根大学大学院総合理工学研究科長、2015年4月島根大学学長。趣味はサッカーで、国体出場経験もあり。

て、応えていくことも大学の大切な使命と考えています。

地域経済の発展と 独自色豊かな大学が生む 新たな地域活性化

会頭 島根の産業界の課題は、中核都市圏がなく、産業集積しにくい点です。経済界は今、従来の統治機構の枠を超えた「中海・宍道湖・大山経済圏」で戦略を練っています。70万人弱の人口と財政規模、歴史的な積み上げがあり、既に観光政策などで実績を上げています。



Keyword

山陰地域の未来をささえる 地域貢献人材育成への挑戦

島根大学では、地域貢献を志す学生を受け入れる「地域貢献人材育成入試」を、全国の国立大学で唯一行っています。この入試において重視する志願者の資質・能力は、「地域への想い」です。島根県には、人口減少や過疎化、高齢化等、解決すべき様々な課題(Challenge)が存在しています。それらの課題に挑戦(Challenge)しようとする意欲のある学生を選考することを目的としています。

この入試で入学した学生は、所属する学部の専門教育を受けるとともに、「COC人材育成コース」にも所属し、学部の垣根をこえて地域について学びます。「地域での学び」と「専門の学び」の両方で、地域の未来をつくり、地域で生きる礎を着実に固めます。



COC人材育成コースの「フレッシュマンセミナー」の様子。
雲南市波多地区を歩きながら、地域について学びます。

また雇用環境が変容する中、潜在的に眠っている労働力を発掘してくる必要があります。

学長 大きな経済圏域ができることは地域のブランド力の向上にもつながり、学生にとっても魅力的です。我々にとっても心強いです。

「人生100年時代」を迎えリカレント教育の重要性が叫ばれています。定年を迎えた方や家庭の事情で一時的に職場を離れた人が再び能力を発揮し、社会で活躍できるように、大学としても従来の枠にとらわれ

ず、学び直しの新たなプログラムを設置したいと考えています。学びのための費用の問題もあります。産業界による寄付や補助金などの支援システムも考えて頂ければと思います。

島根大学は今後も、広く社会で活躍する人材を育て、地域における文化拠点の任を担いながら、地域に根差した特色ある、そして国際水準の学問研究を推進し、地域と二体化して発展していきたいと思っています。今日は色々なご意見をありがとうございました。

【特集2】 島根と世界の縁結び

島根大学の 国際交流

Shimane ∞ World



Episode

1

中海・宍道湖・大山圏域で産学官が連携

IT分野に特化したインドとの交流拡大へ

山陰地方と
インド・ケララ州
産学官連携で
人的交流を加速

島根大学は、中海・宍道湖・大山圏域の自治体や商工団体等の産学官で構成される「インドIT人材確保・企業連携事業実行委員会」に参加しています。この団体では、優秀な理工系学生が多いインド、特に本学の交流協定校であるコーチ理工大学、ラジャギリ工業技術大学のあるケララ州から留学やインターンシップ等を通じた人的交流を行うことで、IT人材の山陰地域での就職やIT企業間の業務提携等を促進することを目的にしています。

これまでにインドでの留学フェアの開催やIT企業市場視察等を行ってきましたが、1月14日～26日の日程で、本学への短期研修と山陰地域のIT企業へのインターンシップを行いました。

今回は、この事業の模様と参加したインド人学生、島根大学、松江市、地元IT企業の担当者との声を通じて、島根大学の国際交流活動の一貫をお伝えします。

本学と地元IT企業で 「Rubyの街・松江」を体感



松江市学園にある「株式会社ネットワーク応用通信研究所」でのインターンシップの様子。

1月14日から2週間、インド・ケララ州内にあるコーチ理工工学、ラジャギリ工業技術大学、SCMS工業技術大学から、ITを専門とする学生10名と教員1名が参加し、本学は特に事業全体の運営及び大学における日本語教育やITに関する講義で協力をしました。

1月15日にプログラミング言語Ruby開発者である、まつもとゆきひろ氏の講演や松浦松江市長、島根大学出口副学長への表敬訪問、夜には歓迎会を行いました。1月16日～19日まで本学にて短期日本語講座として、基礎日本語を学んだほか、ITに関する講義、本学学生との交流活動、松江城見学や和菓子作り体験、堀川遊覧など松江の文化と風情にも触れました。また1月

20日にはシンポジウムを松江テルサで開催し、多くの参加者に優れたIT人材を輩出するケララ州について紹介を行いました。

1月22日～26日までは本事業に参加する地元IT企業（ネットワーク応用通信研究所、日本ハイツフト、島根情報処理センター、モンスター・ラボ、オネスト計5社）でのインターンシップを行い、学生及び企業間での交流を通じて相互理解を深めました。本事業を通じてインド人学生及び本学、地元IT企業で様々な気づきと新たな展望を見つけることができ、実り多い事業となりました。本学では、引き続き地域と連携した国際化への取り組みを拡充していきます。



松江市白鷺本町にある「株式会社モンスター・ラボ 島根開発拠点」でのインターンシップの様子。

インド・ケララ州は こんなところ！

ケララ州はインドの西海岸&最南端にあり、インドでも一番「識字率が高い州」として有名な、教育水準の高い場所です。また、新鮮な魚料理やインド国内でも有数のビーチ、緑豊かなバックウォーター（水郷地帯）でのクルーズ、インドの伝統医学であるアーユルヴェーダなどでも有名です。



島根大学とインド・ケララ州

本学は2016年5月に、インド・ケララ州にあるコーチ理工工学と大学間交流協定を締結しました。両大学の交流は、本学生物資源科学部との間で行われている、ラマン分光法の医療応用に関する研究交流を契機としています。

松江市

2度目のインターン事業を終えて

2016年度に続き2度目(2017年度事業)のインターンシップ事業を担当しました。研修生の皆さんはとても優秀で真面目な印象を受けました。また、この地域を気に入ってくれたこともあって、初年度の参加者11名のうち2名が、この地域のIT企業に就職することとなりました。一方で、地元企業が彼らの採用を考える際に、一番の課題となるのが「日本語」です。2018年度からは、島根大学の力を



松江市産業経済部
まつえ産業支援センター
副主任
佐藤 文昭 さん

を借りながら、現地での日本語教育を開始する予定です。彼らが日本語能力を身につけた上でインターンシップに参加するようになれば、この事業を通じたケララ州IT人材のこの地域への就職も増えていくものと考えています。

インド・ケララ州IT人材への期待

2015年に本市を含む中海・宍道湖・大山圏域市長会とインド・ケララ州とで経済交流の覚書を締結したことを機に、昨年度からケララ州からのIT人材のインターンシップ事業を開始しました。この事業に取り組んだ背景には、日本が直面するIT人材の不足という課題があります。2016年の経済産業省の報告書によると、2030年には79万人のIT人材が不足するとも言われています。本市は



松江市産業経済部
まつえ産業支援センター
事務局長
大谷 利行 さん

RubyCity MATSUEプロジェクトと称してIT人材の育成に努めているところですが、同様に人材不足の課題を抱えています。本事業が、地域のIT人材の確保、ひいては地域産業の発展に貢献するものになればと考えています。

島根大学

ケララ州と連携したIT人材育成

インド・ケララ州の教育水準は高く、海外で活躍する場を求める若者達の熱意には並々ならぬものがあります。今回のインターンシップでケララ州の3つの大学から派遣されてきた学生達も、島根大学での講義、地元企業での研修に非常に熱心に取り組み、彼らが将来の活動の場として、この地域を考えていることを実感しています。2018年度には島根大学の学生がケララ州でインターンシップを



島根大学総合理工学研究科
インドIT人材確保・
企業連携事業実行委員会
教授/委員長
濱口 清治 さん

を行う予定になっており、本事業がグローバルな視野を養うためのきっかけになってくれればと考えています。将来的には、広く人材交流を通じて、両地域がともに学び働く場となることを期待しています。

グローバルとローカルをつなぐ

今回のIT人材育成事業で来松したインド・ケララ州の研修学生は、島根大学の交流協定校等の学生です。IT企業でのインターンがスムーズに進むよう、インドからの学生には島根大学でITの講義だけでなく、初級日本語を学んでもらいました。島根大学の国際交流は地域に必要な人材育成にも貢献しています。滞在期間中彼らは島根大学の学生とも活発に交流し、今年度は島根大学の学生



島根大学副学長
(国際交流担当)
教授
出口 顕 さん

がケララへインターンに行きます。この事業がキャンパスのグローバル化を推進し、様々な研究分野のインド人学生が島根大学に留学し島根県で就職することを期待しています。

将来は松江に戻って働きたい

日本の企業を経験すると共に日本で働くチャンスを探求めて参加しました。松江に来て、新しい文化、人々に触れることができました。研修中はコミュニケーションという点で困難なこともありましたが、その都度、コミュニケーションがとれるよう努力してくださる姿に感銘を受けました。松江がとても気に入ったので、将来働くなら、松江に戻ってきたいです。



ラジャギリ工業技術大学
ELIZABETH
BENNY さん
エリザベス・ベニー

1 day report

島根大学での研修中、午前中は主に日本語の授業を受けました。授業や様々な交流を経て、英語がまったく話せない日本人とも日本語でやり取りができる自信がついたそうです。



プロフェッショナルの仕事の間近で

Rubyの聖地で学び、インターンシップができることにとても期待していました。プログラムを通して、Rubyという新しい知識が得られたことに加えて、日本のITのプロフェッショナルがどのように働いているか間近で学べる貴重な機会となりました。今は、彼らと自分との差は大きいですが、インドに戻って精進し、プロのレベルまで自分を上げたいです。



コーチ理工科大学
GAURAV
PARASHAR さん
ガウラブ・パラシャール

1 day report

期間中には、島根大学の日本人学生と一緒に、食堂でランチ交流会も行いました。箸の使い方を教わるなど、笑顔がたえないあつという間のランチタイムだったようです。



エンジニアが活躍できる環境づくり

弊社では、2016年度のインターンに参加した学生1名を、エンジニアとして採用しました。ITを学んだ意欲の高いエンジニアを、海外から採用できるということは貴重な機会だと思います。

国内外の高度なスキルをもった人材が活躍し、キャリアアップを図れる環境づくりに、行政と連携して取り組んでいきたいと考えています。



株式会社モンスター・ラボ
島根開発拠点
責任者
山口 友洋 さん

Company prof

平成18年設立。東京に本社があり海外にも8ヶ国に拠点を有する。ゲーム事業、デジタルパートナー事業、音楽事業を展開し、島根開発拠点ではWebサービスやスマートフォンアプリの開発を行っている。



インド・ケララ州との連携

山陰インド協会の活動も含めインターンシップ事業は、インド・ケララ州との連携を深めています。この関係は当地にとりさまざまな可能性を秘めていると感じていて、まずはインド・ケララ州からの優秀な人材を一人でも多く迎え入れ、IT産業を含めた地域の活性化につながることを切に願っています。当社としても優秀なエンジニアの採用や事業の連携に向け積極的に努力を重ねていきたいと考えています。



株式会社ネットワーク
応用通信研究所
代表取締役
井上 浩 さん

Company prof

平成9年創業、平成13年設立。松江に本社があり、主な事業はオープンソースソフトウェアを利用したシステム開発及び運用保守、セミナー・教育等。Rubyの開発者として知られる、まつもとゆきひろ氏が在籍し、高い技術力を誇る。



Episode

2

国境をこえてチャレンジする学生たち 留学生・留学体験紹介

現在島根大学では、世界28か国・地域、89の大学・機関と交流協定を結んでいます。毎年、多くの島大生が海外へ留学し、多くの留学生が海を渡ってやってきます。留学経験のある学生に、留学体験について伺いました。

FROM



出身校

ケント州立大学 (アメリカ)

ウィーラー・ジェシー・スコット

WHEELER Jesse Scott さん

(教育学部 特別聴講学生)

よりスムーズな会話を目指して
日本人との交流も増やしたい

日本のゲームが好きなきっかけで、日本語や文化に興味を持ち、もっと勉強したいと考え留学を決めました。島根大学は、僕の出身校・ケント州立大学と雰囲気似ているので生活しやすいです。留学当初は日本語があまり話せませんでしたが、日本語クラスでの勉強と自習でかなり上達し、日本での生活の幅が広がったと感じています。今、特に力を入れているのは「聞き取り」です。人によって話し方が違うので、実際の会話となると二度で聞き取れないことも多いです。YouTubeや日本のドラマを見ながら聞く練習をしていますが、今は日本人学生ともっと話す機会を増やして、スムーズに話せるようになりたいと思っています。日本にいるからこそできることを、ひとつずつしっかりやっていきたいです。



1.ハロウィンの前に、留学生と日本人学生とともにジャック・オー・ランタンを作りました。2.日本文化の授業では茶道や座禅などの体験もしました。写真は着物の着付け体験。

諸般の事情により非掲載としています。



1. 日本の友人・サトさんの家にて。日本と外国の友人と一緒にケーキを食べたり、お茶を飲んだりしました。2. 冬の鳥取砂丘にて。雪がある砂丘の美しさに感動。



ソン・イルジュン
宋 一浚さん
(生物資源科学部 特別聴講学生)

FROM



慶尚大学校 (韓国)

出身校

研究者という夢に向けて
研究が盛んな日本で学ぶ

日本は森林学の研究が盛んだと知り、日本で学びたいと考えようになりました。2年前にサマーキャンプで島根大学を訪れた際に、島大で森林学が学べると聞き、留学を決意しました。私は将来研究者を目指しているのので、卒業後は日本の大学院に進学したいと思っています。そのためにも大学時代に日本で学んでおきたいと考えました。大学でできた友人とのコミュニケーションで日本語も上達し、一緒に様々な場所へ出かけました。中でも印象的だったのは、八重垣神社にあった木です。根本は二本で、地上で幹がくっついた面白い木がありました。森林学を学んでいる私としては、なぜこんなことになっているんだらう？と大変興味深かったです。日本の大学院に進学したら、ぜひ研究してみたいテーマのひとつが見つかりました。

ミドリゾウリムシで 細胞内共生の解明を 生物の進化の謎にも迫る

進化の原動力 「細胞内共生」

動物が生きていくために必須のエネルギーを作るミトコンドリアや、植物の光合成を行う葉緑体は数十億年前、「細胞内共生」という仕組みによって誕生したと考えられています。児玉准教授は、「細胞内共生は進化の原動力です。しかし、なぜ起きるのかは、ほとんど分かっていません。この仕組みを解明する鍵を握るのがミドリゾウリムシなのです」と声力を込めます。

細胞内共生を繰り返してきた生物は数多くありますが、ほとんどの生物では宿主細胞と共生細胞の相互依存性が深く進行している

ミドリゾウリムシってご存知でしょうか。ゾウリムシの一種ですが、細胞内にクロレラが共生しているので緑色をしています。生命科学科の児玉有紀准教授は、ユニークな生態を持つミドリゾウリムシを使い、同じ細胞内に別の生物を共生させる「細胞内共生」の仕組みの解明に力を注いでいます。



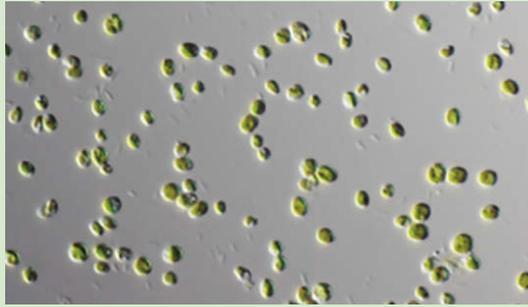
PROFILE

生物資源科学部 生命科学科
児玉 有紀 准教授
こだま ゆうき

昨春、初めて高校生物の教科書でミドリゾウリムシが紹介され、私が撮影した写真も掲載されました。今は「ミドリムシ」などに間違われることも多いのですが、魅力や有用性をしっかり伝え、将来的には、中学校や高校の生物の全教科書で取り上げてもらうのが目標です。

除去と再共生の誘導

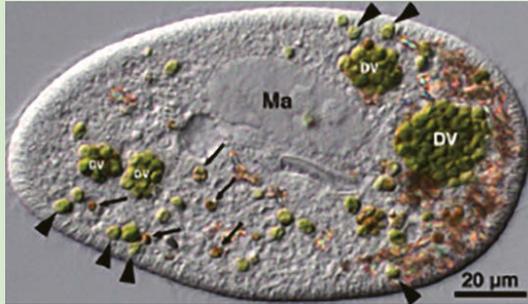
② ミドリゾウリムシから単離した共生クロレラ



単離

混合

④ ②と③を混合してから3時間後

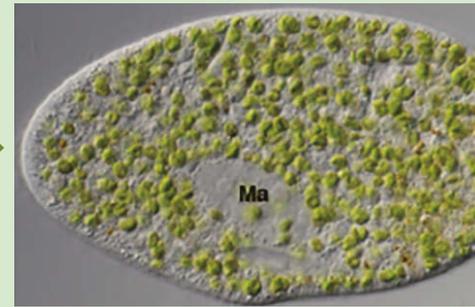


再共生

細胞分裂による増殖

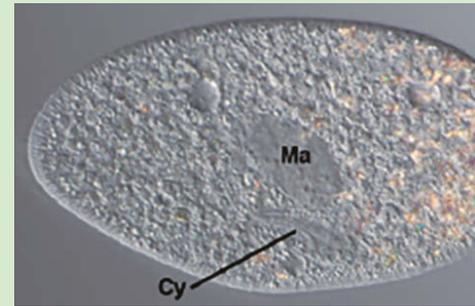
クロレラの

① クロレラ共生ミドリゾウリムシ



クロレラの除去 ↓

③ クロレラを除去したミドリゾウリムシ



1. 共生クロレラの除去や再共生の図。これは人為的に繰り返して誘導することができます。2.4. 昨年11月に筑波大学筑波キャンパスで開催された、第50回日本原生生物学会大会では、念願の学会賞を受賞。3. 大学院1年の時に初めて参加した国際学会 (XIIIth International Congress of Protistology, 中国、広州市) で、Best Presentation Awardを日本人初で受賞。

ため、共生体を除去すると宿主も弱ったり死んだりしてしまいます。たとえばサンゴの白化現象もその一つです。サンゴは褐虫藻とよばれる藻類と共生していますが、水温上昇などが原因で褐虫藻が失われると、「白化」します。白化が進むとサンゴは死んでしまいます。

しかしミドリゾウリムシの場合、共生している緑藻類クロレラを除去しても、クロレラもミドリゾウリムシもそれぞれ単独で培養することができます。さらに再びその両者を混合すると、もう一度細胞内共生を成立させるのです(図参照)。「大学3年の時、ミドリゾウリムシに出合っって驚くとともに、まだ世界的にも研究が進んでいないと知り、一気にのめり込みました。共生体を取り除いても、宿主が元気というのは驚きでしかありませんでした。ミドリゾウリムシは、真核細胞の誕生と進化を解明するためのモデル生物です」と児玉准教授。「サンゴなどと違って、家の周りの田んぼやため池などの淡水であれば、どこにでもいる身近な存在。研究者にとっては有り難いです」と笑います。

共生の仕組みを解明し
環境保全などへも活用

共生体がいると、宿主もパワーアップします。ミドリゾウリムシの場合、クロレラが光合成を行って糖や酸素を供給してくれるので、餌がなくても長期間生存でき、高温や各種薬剤にも耐性を持ちます。一方、クロレラもミドリゾウリムシから窒素や二酸化炭素を得て、光合成活性を上昇させます。ちなみにクロレラは宿主の中で細胞分裂して増殖するのですが、ミドリゾウリムシの分裂と同調しているので増えすぎて破裂することはありません。「驚くべきメカニズムです。なぜ共生という状態が生まれるのか。ミドリゾウリムシを使えば、その成立過程の謎を解くことができると信じています」。

児玉准教授は市民講座や出前講義などを通し、ミドリゾウリムシを子供たちに積極的にPR。ゾウリムシの水質浄化作用に着目し、地元企業と共同で畜産排水への活用も研究しています。「将来的には医学や獣医学、環境保全など様々な分野の応用研究にもつなげていきたいです」。

率直に向き合って 心の健康を支援 ボールの力に注目



遊びを通して
子どもの心を受けとめる

高橋准教授が副センター長を務める「こころとそだちの相談センター」の昨年度の相談件数は、様々な年代の子どもとその保護者、そして成人によるものまで延べ約6000件に上り、全国的にもトップクラスだそうです。「地域におけるこころのケア拠点として定着しつつあるのかも知れません。普段自分の思いを表現しにくい人も、限られた相談時間や日常と違う空間という“枠”を設定することで、心内を出しやすくなるようです」と高橋准教授。

悩みや苦しみを言葉で説明することができない大人と違い、子どもの

けがをしたり、風邪や内臓などの病気で辛くなったりすれば、誰しも病院に通うなどして治そうとします。同じように、心に病気や悩みを抱えていても快適に生活するのが難しくなります。人間科学部心理学コースの高橋准教授は、心の健康の回復・維持を手助けする心理療法を実践、研究しています。



PROFILE

こころとそだちの相談センター
人間科学部 人間科学科 心理学コース

高橋 悟 副センター長 准教授
たかはし さとる

中学、高校とバレーボールにのめり込む一方、小説を読むのも好きでした。ストーリーの中では、いろんな人がいろんな思いを展開します。人というのはそれぞれに物語があるけれど、その根元にあり、原動力でもある“心”とは何だろうと、心理学に興味を抱き始めました。

「こころそだちの相談センター」はP17でも紹介しています。



1. センターには3つのプレイルームがあり、たくさんの玩具が。担当者からこれをしようというのではなく、子どもが遊びたいように表現してもらいますと、高橋准教授が説明します。 2. 箱庭。言葉にしにくい思いが表現できるのだとか。 3. 成人向けの面接室。



場合は身体症状やくせなどの行動が出てきて初めて、周囲が心の不調に気づくことが少なくないそうです。センターではまずプレイルームで自由に遊んでもらい、子どもが表現したいことを表現してもらってそれを受止めるところからスタートします。

「遊ぶといつてもただ楽しく遊ぶだけではありません。子どもは遊びを通して、自分が抱えているしんどさや問題を伝えてもくれます。ですから、担当者はその遊びに一緒に入り、いき、そのメッセージを受け取ろうとすることが大事なのだと思います」。

キャッチボールで 自他の分離を

心理療法の中では従来、自分の内面に気づいていくことが重要視されてきました。しかし高橋准教授は、自閉症や発達障害、その傾向がある子どもたちと多く接する中で、「気づき」の前に自他の分離が大事だと考え始めています。「『したい』『したくない』と思う『自分』がはつきりせず、自分はやりたいたいわけではなく、人からも求められていないのに、

やらなくちゃいけないと思いつんでしまつて苦しくなる人がいます。子どもに限らず、最近は大人数でも多いです。まず『他人とは別個の自分』を感じられることが現代の心理療法には大切なように思います」。

このことと関連して、プレイセラピーの中で用いられるボールに注目しています。「キャッチボールやボールの蹴り合いは、二人の間に距離がないとできません。だからこそ相手の存在を意識し、どのようにボールを投げたのかを考えることになります。このようなボールのやり取りを通じて、相手とは別個なものとしての自分を確かなものとして感じられるようになることがあります。このように遊びとその変化を通して、こころの状態とその変化を理解しようとしていきます」。また、二人の間を行き来するボールは、時には思わぬ動きをします。これがセラピーに展開をもたらし、これもまたあるそうです。「このようなボールの機能や役割についての実践に基づく研究は、成人の面接にも通じるテーマであると思います。これらの実践と研究により、こころそだちの相談センターの心理臨床の質を高めていければと思います」。

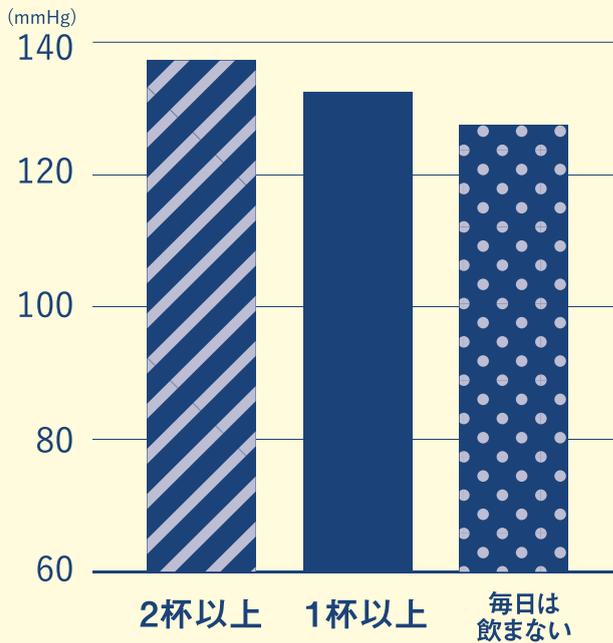
む回数と塩分摂取量・血圧

島根大学の
研究・地域貢献
事業紹介

3

地域包括ケア
教育研究センター

収縮期血圧



塩分摂取と血圧上昇の メカニズムを探って 地域住民の健康増進を

遺伝子解析も用いて 高血圧の要因解明を

食事などから体の中に入ったナトリウムなどの塩分は、腎臓の働きによって尿中に出ていきます。しかし塩分を多く摂りすぎると尿中へのナトリウムの排泄が不十分となることで体内に水分が貯まり、その結果血圧が上昇する——これが塩分摂取による高血圧のメカニズムと考えられています。しかし磯村教授は「塩はどこに貯蔵されているかも分かっているのです」と指摘します。「塩分を摂取すると血液に入りますが、血液中の塩分濃度はある程度一定の範囲に収まっています。ただ、実は皮膚や筋肉にも貯まって

塩分を取り過ぎると高血圧などの生活習慣病を引き起こしやすくなることは、古くから知られています。しかしそのメカニズムは解明されていない点が多いそうです。人間科学部の磯村実教授は、生活習慣病の予防、特に高血圧についての研究を進め、市民の健康増進活動に力を入れています。



PROFILE

地域包括ケア教育研究センター (CoHRE)
人間科学部 人間科学科

磯村 実 副センター長／教授
いそむら みのる

兵庫県出身なのですが7年前、島根医科大学(現島根大学医学部)を卒業して以来、約20年ぶりに島根に戻ってきました。駅周辺に何もなかった出雲が随分都会になりましたね(笑)。そういえば家庭教師をしていた学生時代、お茶と一緒にどっさり漬物が出てきてびっくりしたことを今でもよく覚えています。

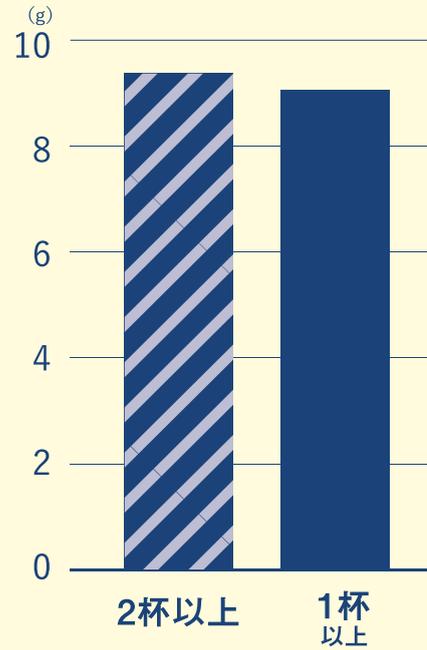
みそ汁を飲

「地域包括ケア教育研究センター」はP18でも紹介しています。



1.住民健診で調査した塩分摂取量と血圧に関するデータ。2.住民健診以外にも、年に数回市民講座で地域に出かけ、直接住民の方と話す機会があるのだとか。3.研究で使用しているラット。元島根医科大学教授の家森幸男氏が確立したSHRSPは、高血圧や脳卒中のメカニズム解明に欠かせない。

塩分摂取量



1

いて、免疫反応に関わっているのではないかとという説もあるのです。また、遺伝的に塩分を摂取しても血圧が上がりにくい人がいます。しかし一時的に上がらないだけで、長期的に塩分を摂れば血圧が上がる可能性が高いと私は考えています。血圧上昇のメカニズムを解明できれば、減塩や予防もしやすくなります」。

磯村教授は長年、医学部で遺伝医学やゲノム疫学にも携わってきました。現在はラットを使った遺伝子解析で、塩分摂取と血圧との関連を共同研究しています。「必ず脳卒中を発症する系統のラットと、他の系統で塩水の好き嫌いが異なります。遺伝子を調べていくといくつかの遺伝子に違いが見つかりました。それだけでは結論を出しにくい面はありますが、違いがあるのは確かであり、探っていくとと考えています」。

地域住民の協力を得て 力を入れる減塩対策

磯村教授の研究に欠かせないのが、地域住民の協力です。定期的

自治体を実施している健診などに出向き、塩分摂取量の調査を実施しています。対象としている隠岐・邑南・雲南の3地区では、地域差も見られることが分かりました。「雲南の塩分摂取量が多かったのですが、食べ物に関するアンケートの結果、漬物を食べる回数が多いことが原因ではないかと考えています。またいろんな塩分濃度のみそ汁を飲んでもらって感じ方を調べたこともありま

す。濃い味をちょうど良いと感じるのは、遺伝子や生活環境が影響しているようです。塩分摂取過多の原因を探ることで、対策を考えやすくなります」。自治体と共同で減塩の取り組みを続けた結果、少しずつ成果も見えてきているそうです。「減塩で、心筋梗塞や腎不全などいろんな病気を改善できます。短期間で効果は出ませんが、ゆっくりと進めていければと思っています」。

塩分摂取の影響は長い期間を経て出てくることが多いため、磯村教授は若い世代から意識することの重要性も強調します。「諸外国では国を挙げて対策を取っているところもあります。本来は学校教育などで普及できるのが理想です」。

昨年よりスタートした、地域貢献を目的としたセンター

「こころ」と「健康」の側面から地域を支える

本学では、教育・研究活動と地域貢献活動を一体化させ推進していくため様々な施策を行っています。今回は、中でも身近なこころと体の健康に関する活動について紹介します。

こころ



地域に開かれたこころのケア拠点 「こころとそだちの相談センター」

<https://www.psy.shimane-u.ac.jp/>

地域住民の「こころ」を支える

こころとそだちの相談センターは、平成13年度に設立された「心理臨床・教育相談室」を前身とする、こころの相談に関する専門機関です。設立以来、地域の方の「こころ」と「そだち」をサポートすべく、多くの相談を受けてきました。そして、よりいっそう地域に開かれた心理相談機関となるため、平成29年度から「こころとそだちの相談センター」として新たなスタートをきり、平成30年度からは出雲キャンパスの医学部内に分室も開設することとなりました。

臨床心理士の資格を持つ教員・相談員を中心に、スタッフ全員が「来談される方を大切に継続ける」という姿勢を徹底し、年間延べ6000回を超える個別面接等を実施。また、産業界に於けるメンタルヘルスの向上を目的に、アンケート式の心理検査である島大式働き方タイプ診断(SCWAT)を開発しました。すでに複数の企業で利用が開始され、新入社員の面接等に活用されています。

その他にも、山陰地方の医療や教育現場で活躍する専門家を対象とした研修会等を開催し、生涯的な学びの場を提供しています。

こんなご相談に対応しています。

子どものこと

- 子育ての悩み
- 発達や言葉、行動のこと
- 幼稚園・保育園・学校のこと
- メディアとの関わり方について

家族のこと

- 家族内の人間関係の悩み
- 家族の心理的問題に関すること

自分自身のこと

- 自分自身の生き方や性格のこと
- 心身の不調
- 社会参加に関する悩み
- 人間関係の悩み

こころとそだちの相談センター



ご相談のお申し込み

申し込み(受付)
TEL:0852-32-1100
電話受付時間
月~金曜 10:00~16:00
ご本人か保護者の方が、電話でお申し込みください。

社会人向けの講義やセミナーがあれば、掲載してほしいと思います。

(鳥根県出雲市・50代女性)

里山管理研究会の活動内容に興味を持ちました。

(鳥根県仁多郡・50代女性)

共同研究の記事を興味深く拝見しました。素晴らしいと思うので、共同研究講座の取り組みを強力に発信してほしい。

(東京都日野市・30代男性)



一層の健康長寿の実現を目指す

「地域包括ケア教育研究センター」

<http://www.cohre.jp/>

健康長寿社会のあり方を探求

地域包括ケア教育センターの活動は、2006年に始めた「重点研究プロジェクト」がきっかけとなっています。このプロジェクトは、中山間地を抱え国内トップクラスの高齢化が進行する島根県でこそ可能な、「地域貢献と融合可能な先端的研究」を起ち上げることを目標としたもので、10年余りにわたって活動を続けています。その間に2度の名称変更を経て、2017年4月より、研究・学術情報機構内に新設された「地域包括ケア教育研究センター」として新たに出発しました。

地域貢献と独創的な研究を、地域住民や自治体と協働して行うことはもちろん、各学部お

よび地域間連携の拠点となり、地域の健康づくり、コミュニティづくりに積極的に貢献できる人材の育成も進めています。また、地域での健康づくりに有益なデータの収集を行い、学内の研究者のみならず、実際に地域医療を実践している方々との共同研究を行っています。

地域包括ケア教育研究センター



センターには医学系の研究者だけでなく、社会学や経済学を専門とする研究者も所属しており、分野横断的な研究を目指しています。

地域でこんな活動をしています

活動事例

1.

地域での健康づくりに関する協力



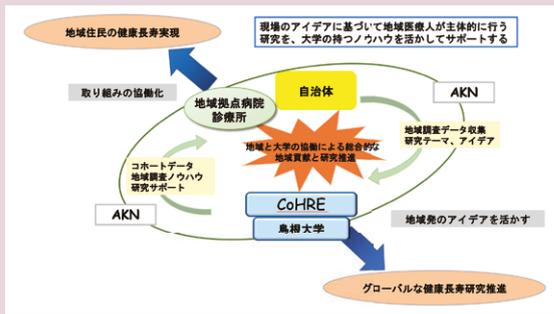
自治体と共同で実施している事業で、地域での様々な健康調査、健康づくりへの協力活動です。健康調査は2006年から継続している中核となる事業で、住民の方々のご協力の下、約5000件以上の血液およびDNA検体、7000件を越える健診情報を収集、保管しています。



活動事例

2.

地域医療関係者との共同研究



Academic Knowledge Network (AKN)の活動です。これは、センターが持っている研究のノウハウや資源を活用して、地域医療の第一線で活躍している医療関係者が、現場で得た研究のアイデアをまとめた研究成果として結果させることができるようにサポートする仕組みです。すでに島根県内の10名近い医療関係者とネットワークを形成して研究を進めており、国際誌への論文発表や学会発表、学位取得などの成果も挙がってきています。

読者の声 Voice

広報しまだい vol.35に寄せられた声をお届けします。

救命率の向上、医療のさらなる向上にむけて、「高度外傷センター」を応援しています。

(島根県出雲市・70代女性)

いつも楽しみにしています。先日、島大のトマトジュースを頂きましたが、とてもおいしかったです。

(東京都千代田区・50代男性)

しまだいい便り

大学の旬な情報をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

TOPICS

1

宇宙と素粒子に関する最新研究について学ぶ ノーベル物理学賞受賞者による講演会を開催



2月17日(土)に松江市のくにびきメッセにて、素粒子ニュートリノの研究でノーベル物理学賞を受賞した東京大学宇宙線研究所の梶田隆章所長の講演会を開催し、370名の小・中・高校生や本学学生及び社会人が聞き入りました。物質を構成する原子を更に細かく分解していくとニュートリノなどの素粒子の存在がわかり、その小さな粒子を研究することが広大な宇宙の成り立ちを解明する手がかりとなること、そしてニュートリノに重さがあるというスーパーカミオカンデグループの画期的な発見など、宇宙と素粒子の話をつかりやすい言葉で情熱的に語る梶田教授の話に、参加者は世界に誇る大型プロジェクト研究に対する理解を深めました。講演後の質疑応答では予定の時間を超過するほどの多数の質問が相次ぎ、それぞれに丁寧に分かりやすく梶田教授から回答があり、盛況のうちに講演会を終りました。

TOPICS

2

学生のキャリア教育を推進する 学生と企業技術者による発表会を開催



総合理工学部・研究科では、2月23日(金)に「学生と企業技術者による合同研究技術発表会」を開催しました。これは「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の一つであり、学生のキャリア教育の一環として実施されたもので、当日は、総合理工学部・研究科の学生17組と地元企業10社が発表し、総勢130人が来場。様々な課題についてポスター形式にて発表が行われ、活発な交流の様子が見られました。

TOPICS

3

気軽に地域の史資料に触れられる 新しいデジタルアーカイブ・システムを公開



附属図書館では、本学が所蔵する古籍籍等の他、地域の美術館や旧家が所蔵する史資料をデジタル化して公開してきましたが、1月30日(火)から新しい国際規格IIIFに対応した新しいデジタルアーカイブ・システムを公開しました。これにより、格段に操作性が向上し、インターネットに接続された環境があれば、誰でも気軽に高精細な史資料のデジタル画像を無料で利用できるようになりました。

開かれた大学づくりには、こういった広報誌やHPなどを使って情報提供していくことが不可欠だと思います。

(島根県大田市・50代男性)

島大は近寄りたがい存在でしたが、広報を通じて身近に親しく感じられていいなと思いました。

(島根県邑智郡・60代男性)

公開講座や公開授業の状況、受講者の声などを紹介してほしいです。

(島根県松江市・60代男性)

精神神経疾患の新たな治療法を研究する 共同研究講座 「免疫精神神経学共同研究講座」を設置



1月5日(金)、島根大学と株式会社RESVO(以下:「RESVO」)は、医学部に共同研究講座「免疫精神神経学共同研究講座」を設置し、記者会見及び看板上掲式を行いました。精神神経疾患の一つである統合失調症は、人口の約0.8%が発症すると考えられています。基礎研究によって、統合失調症の一部が免疫障害に由来することが明らかとなったものの、これらに対する治療方法は確立していません。

近年、医学部精神医学講座において、一部の統合失調症患者に対して免疫に作用する薬剤や骨髄移植が有効である可能性が見られました。そこで、免疫障害に由来する統合失調症の基礎研究に強みを持つRESVOと共同で免疫障害に由来する精神神経疾患の治療法の開発を行うこととなりました。

記者会見にて、服部泰直学長は、「今回の共同研究講座における研究により、治療開発が進み、患者さんの希望となることを期待します」、RESVOの小林宣文代表取締役は、「精神神経疾患の根治に向けたスタートとなった。これから一丸となり、頑張りたい」と述べました。

充実した大学生活のための事前学習 入学前セミナーを開催



12月24日(日)・25日(月)の二日間、アドミッションセンターでは、推薦入試I、AO入試Iの合格者を対象に入学前セミナーを開催しました。これは、入学後大学での学習や生活が円滑にスタートできるよう、入学前指導・教育を目的に毎年度実施しているものです。今年度は109校から144名の生徒が参加し、セミナー、学部訪問等を通じて交流を深め、入学するまでの生活、学習の目標を定めました。

自転車の鍵掛けを推進 「自転車盗難被害防止活動」を実施



学生の自転車の鍵掛けを習慣づけることを目的に、大学防犯ボランティアの有志が12月20日(水)に自転車の鍵掛け運動を実施しました。事前に学生が松江警察署と座談会を開催し、「自転車盗難被害防止活動(ワイヤー錠取付)」を企画。学生がデザインしたポスターを構内に掲示するなど、事前に周知を行いました。参加学生からは「意識向上により一台でも被害を減らしたい」という声が聞かれました。

7

医療分野の共同研究と支援を推進する
カザフスタンの2校と交流協定に調印



1月25日(木)、カザフスタンのセメイ国立医科大学からNurzhan AIDOSSOV 副学長、Nailya CHAZHJUNUSOVA 教授、カラガンダ医科大学からRaushan S. DOSMAGAMBETOVA 学長、Anar A. TURMUKHAMBETOVA 副学長を迎え、島根大学にて学術交流協定書の調印式を行いました。

セメイ国立医科大学と本学は2013年1月に学術交流協定を締結。以降、医学部総合医療学講座の野宗教授を中心に、がん治療や放射線に関する共同研究や現地支援などの活動等を行っており、5年の交流を経て、協定の更新となりました。また、カラガンダ医科大学とは、セメイ国立医科大学との共同研究を通して学会参加や研究者の訪問等の交流が盛んになり、この度、新規に協定を締結しました。

カザフスタンはセミパラチンスク核実験場の放射線が原因で、多くの国民が癌などの健康被害に苦しんでいます。今後も共同研究を進めながら、医療支援を目的とした研修医の相互受入や医療教育の実施、地域住民への医学的支援を行う予定です。

8

仕事と家庭の両立支援を推進
プレミアム「こころ」を受賞



島根大学は、島根県知事から平成29年度プレミアム「こころ」カンパニーの表彰を受け、1月24日(水)に表彰状を授与されました。仕事と家庭の両立支援をより進めるため、「しまね子育て応援企業(こころカンパニー)」に認定された企業の中から、認定時の審査項目と育児休業や年次有給休暇の取得率、時間外労働の状況などの実績を合わせ、特に優れている企業を表彰するもので、本学は昨年度に続き2度目の受賞となりました。引き続き、教職員の仕事と生活の両立を推進するとともに、男女ともに活躍できるような職場環境の整備に努めてまいります。

荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなを
まもろう!

山陰合同銀行

島根大学オリジナル芋焼酎
神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で栽培された
サツマイモから誕生した「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3,200円(税込)

島根大学生協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 ta.0852-32-6240
http://omise.seikyuo.jp/shimane

求人情報 **メリット**
新聞の折込みで WEB サイトで フリーペーパーで

お仕事見つかるメリット

鳥取・島根のおしごとサーバー **Webメリット**

株式会社メリット
松江市志原5-2-43
TEL.0852-23-1749

キラリ★島大生 学びのチカラ ⑥



たぶち ひさし
田渕 寿 さん

法文学部 法経学科 2年

馬術部部长を務める。高校までテニスをしてきたが、大学に入ってから今までしたことのないスポーツにチャレンジしてみたいと思い、馬術部に決めたのだとか。

日頃から専門的な研究や地域で活躍する学生たち。そんな輝く島大生の教育・研究等の活動を集めるシリーズ企画です。今回は、馬術部に所属し、昨年の国体にホースマネージャーとして参加した法文学部の田渕さんに、活動の様子や今後の展望について伺いました。

国体馬術競技を陰で支える ホースマネージャーとして大会へ参加

**選手が競技に専念できるように
絶えず馬に付き添うサポート役**

昨年10月の国体馬術競技会に、当時の島根大学馬術部監督が島根県代表として出場。監督からの指名を受けて、ホースマネージャーとして参加したのが、馬術部部長の田渕さんです。「ホースマネージャー」とは、選手が競技に集中できるように、その選手が乗る馬のサポートをする役です。選手がコースの下見に行っている間に馬装をさせたり、ホースマネージャー専用の宿舎で寝泊まりして馬の体調に変化がないか、付きっきりで見守ります。「特に起こしやすい病気のひとつに疝痛(※)があります。場合によっては死に至るこ



現在は、出雲にあるM・Kホースパークで活動を行っている。

ともあるので、そのような兆候が表れないかずっと様子を見ていました」。

田渕さんがホースマネージャーに選ばれたのは大会の3ヶ月前です。「何か資格が必要なのではないので誰でもできることではありますが、せっかく指名してもらったので、しっかりとサポートしようという強い想いで望みました」と当時を振り返ります。通常、国体のホースマネージャーは、ホースパークのスタッフ等、普段から馬の世話をしている人たちが行うことが多く、大学生がその役を務めるのは珍しいのだそうです。馬のお世話のプロが集まる中で、田渕さんは無事に大役を果たしました。

**裏方としての経験が刺激に
馬との信頼関係も築いていきたい**

裏方としての国体参加を通して最も印象に残ったのは、トップレベルの選手

の馬を見られたことだといいます。「僕たちが他の選手の馬を見る機会といえば、学生大会くらい



馬術の大会の様子。

ですが、比べものにならないかったです。筋肉の付き具合も違いますし、特に馬の姿勢の違いは、相当教え込んでいるんだらうなと思いました」と、驚きを隠せなかったようです。同時に、馬とスタッフの信頼関係が出来あがっていることも大きいと感じたそうです。

田渕さんが「馬があつてこそその馬術部」と言う通り、活動は馬に合わせて行っています。朝は馬のエサの時間に合わせ6時半には集合し、活動場所のホースパークに向かうそうです。「僕たちの活動に協力してくださるホースパークの方や、馬たちと信頼関係を築きつつ、技術も磨いていけたらと思っています」。

※疝痛(せんつう)…馬の腹痛を伴う病気の総称

しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

出雲キャンパス

SCOP

(Skill Conquest and Output Program)

チームワークを最大の武器に 心肺蘇生の全国大会で総合2連覇！



2.



3.



1.



4.

1. 医学部附属病院のクリニカルスキルアップセンターが主な活動場所。CPRの練習をはじめ、様々な医療技術を学ぶための器具や設備は、全国有数の充実度なのだとか。 2・3. 決勝大会の様子。 4. 第3回大会で優勝したTeam Scopメンバー。(前列左から) 工藤さん、河野さん、永井さん(後列左から) 並木さん、村上さん。

医学生が自ら医療手技を学び他者へ伝えるプログラムを実践している「SCOP」。昨年10月に行われた「第3回全国CPR(心肺蘇生法)選手権大会」で総合連覇を達成しました。この大会は、日本救急医学会が主催し、全国の医学部学生の心肺蘇生技能向上を目的に、一昨年から開催しているものです。「良い点数を取ることが目的にならないよう、実臨床に則した正しいやり方で優勝することを目標にしました」と、代表の工藤さんが振り返ります。

メンバー選出以降、先輩方や大学からの様々なサポートを受けて、授業や

実習終了後の夜を中心に練習を重ねてきました。全員が集まれないときでもそれぞれが限られた時間で練習をおこない、部屋のホワイトボードにメモを残しておくなど個々で得たことを全員で共有し、全体のレベルを底上げした結果が優勝に繋がりました。

SCOPの活動は、技術の取得に留まらず、これを普及していくことも重要な役割だと工藤さんは言います。「正しいCPRができる人が増えれば、それだけ救える患者さんが増えるということです。自分たちが磨いた技術を、多くの人に伝えていけたら」と、今後を見据えます。

昨年先輩たちを超える！ 地道な努力で掴んだリーグ2連覇

松江キャンパス

アメリカン フットボール部



昨年10月に広島で行われた中四国リーグ戦で、アメリカンフットボール部「WARRIORS」が2連覇を達成しました。

アメフト部の試合は春と秋に行われ、秋シーズンが終わると幹部が交代し、新たなチームづくりが始まります。初優勝を果たした一昨年の先輩方が引退した後、主将となった岡田さんがまず取り組んだのが、プレースタイルの一新でした。「先輩方は体格が良い人が多く、力押しのプレーが得意でしたが、僕たちの代は比較的小柄で足が速い人が多かったので、その運動神経を活かしたプレースタイルに変更したんです」。授業の空き時間に筋トレを行ってフィジカルを強化するとともに、すべての練習をビデオで撮影、練習後にチェックしてプレーのイメージを擦り合わせていきました。また、上級生だけでなく、後輩でも思ったことがいいや

すい雰囲気作りをこころがけたことで、部員全員が一丸となって掴んだ勝利だったといえます。

4年生の冬に引退した岡田さん。「大学生活のかなりの時間をアメフトに費やしました。だからこそ後輩たちにも、アメフトのことを好きになって楽しんでやってほしいです」とエールを送ります。今年はどういうチームが出来あがるのか、勝利にも期待がかかります。



1・2・3. シーズン中の部活は週に4回。練習はポジションごとに行い、最後に全体で合わせを行います。部活以外にも、授業の空き時間に筋トレを行うなど、アメフト一色の生活になるといいます。4. 10月22日の中四国リーグ連覇を果たしたメンバーとともに。5. ほとんどの部員がアメフト未経験で、ゼロからのスタートです。

松江キャンパス

柔道部



1. 現在の部員は男性10名、女性1名。柔道経験者から、大学から始めた初心者まで幅広く、週に4回、武道場で汗を流しています。2. 練習は男女一緒に行います。松江市内の高校や中学校に柔道を教えに行くこともあるそうです。

知識の共有と部員確保を積極的に

礼儀を大切にしつつも、学年関係なく思ったことを言い合える「柔道部」。練習メニューは主将の屋島さんを中心に自分たちで考えて実践しています。中でも特に力を入れているのが「技の研究」です。個々で試してみたい、精度を上げたいと思う投げ技を自由に練習し、自分に合う技を見つけたり、得意な技を磨いたりするものです。この練習の中で、積極的に部員同士で意見を出し合って知識を共有しています。柔道部の目下の目標は、中四国大会2部リーグでの優勝。そのためにまずは部員を確保すること、そしてそれぞれの知識不足を全員で補っていくことが大切と、屋島さんは先を見据えます。



演奏を通して患者さんとコミュニケーションを

「フローラ室内楽団」は、入院患者さんの緩和ケアを目的に始まったサークルです。現在は、県立中央病院や附属病院等を中心に演奏活動を行っています。演奏会は、演奏曲の歌詞を配って一緒に歌ってもらう参加型で、患者さんからの評判も上々です。「演奏がしくて集まっているメンバーが多いので、その活動を受け入れてもらえるのはうれしいです」と代表の村上さんと言います。患者さんと直接話す機会もあるため、医学生として様々な気付きがあるそうです。「僕たちの演奏が少しでも患者さんの元気に繋がるなら」と、今後はもっと活動の場所を広げていきたいと抱負を語ってくれました。



出雲キャンパス

フローラ 室内楽団



1. メンバーは20名。1回の演奏会は、平均6~8名で行います。演奏会の開催が決まってから、メンバーや演奏曲を決定し、実際に合わせて練習を始めるのは2週間前くらいからだそうです。2. 保育園での演奏会の様子。



島根大学はスサノオマジックを応援しています!

バスケのルールを知れば、
観戦がもっと楽しくなる!

4月から怒涛のホームゲームラッシュ! 島根スサノオマジック 観戦に行こう!!

Lesson 1

試合時間



1クォーター(以下Q)10分の4本の**40分**。第1・2Qを前半、第3・4Qを後半と言い、第2Q終了後には15分のハーフタイムがあります。

Lesson 2

24秒ルール

バスケットボールはマイボールにしてから**24秒以内**にシュートを打たなければならない。そして24秒までにシュート打てない場合は相手ボールに攻撃権が変わる。

(補足:シュートを打ってもリングに当たらなかった場合はシュートみなされない。)

スサノオマジックでは波多野選手、小阪選手、ソートン選手、ポマーレ選手



PF パワーフォワード (別名4番)

インサイドで体を張ったプレーが多く、ペイントエリア内のミドルシュートやリング下でのシュートを求められる。

Lesson 3

ポジションと役割



島根スサノオマジックの最新情報は...

島根スサノオマジック公式HP <http://www.susanoo-m.com/> [島根スサノオマジック](#) [検索](#)

お問い合わせ先

島根スサノオマジック事務局 ☎0852-60-1866 (平日10時~18時)
また、島大生のホームゲーム運営サポートボランティアも募集中。詳しくは学生支援センターまで。

4月の日程

4月 7日、8日 大阪戦(松江)
4月21日、22日 新潟戦(米子)
4月28日、29日 西宮戦(鹿島)

島根大学支援基金 寄附者一覧

島根大学では学生に対する修学支援及び社会貢献事業を充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。パンフレットは下記ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

ご協力ありがとうございました。※平成29年11月16日~平成30年2月15日にご寄附いただいた皆さま(五十音順・敬称略)

冠客附 丸山 理留敬 (海外派遣学生支援基金、ハワイ大学の研修病院Queens Medical Centerで研修する医学部生への支援) **法人等からのご寄附** 島根大学教育学部同窓会

個人からのご寄附

新井清市	石飛寿実夫	石原邦夫	今田祐子	岩田 淳	内尾祐司	内山 充	太田哲郎	大西啓治	大野純一
大庭卓也	岡田光弘	小川茂幸	奥井 功	神谷年洋	岸本大輝	倉橋 幸	坂口淳一郎	坂根富士男	坂本英治
佐藤勝昭	塩田芳夫	角 荘三	園山裕之	高尾康太郎	田中 滋	調枝勝幸	出口 顕	藤後耕一	永田まち子
永野信吾	名取瑞樹	服部泰直	浜田 太	瀧野富由美	廣瀬昌博	福岡栄子	藤田達朗	松浦晃幸	丸田健一
宮本徹也	棟石 均	山崎文子	山本昭男	山本節子	山本武司	山本博信	山本友里子	百合澤彰	吉田啓二
吉田 浩	米田盛造	渡邊正人							

お問い合わせ/ **TEL 0852-32-6015** (総務課 支援基金担当) http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/
※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載していません。

編集後記

春になり、ようやく暖かな季節がやって来しました。今年の冬は大雪となり、特に寒さが厳しかっただけにほっと一息です。さて、今回の広報しまだいでは学長対談やインドケララ州との連携事業を特集し、これからの島根大学の方針や新たな取り組みについて紹介させていただきました。

本学では4月より総合理工学部・生物資源科学部が改組し、新たなスタートの年です。今回の改組は地域社会の発展に寄与する人材の育成を目指しています。地域のみならずには今後さらに本学のみならず学外で活躍する学生について共に応援していただければ幸いです。またそのような学生が活躍する姿をできるだけ多くお伝えしたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

〒690-8504 松江市西川津町1060
島根大学 広報室
TEL.0852-32-6603 FAX.0852-32-6630
E-mail gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
HP <http://www.shimane-u.ac.jp>

PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工された「トマトジュース3本セット」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/平成30年6月8日必着



島根大学支援基金へのご協力のお願い

島根大学支援基金につきましては、これまで多くの皆様にご支援・ご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

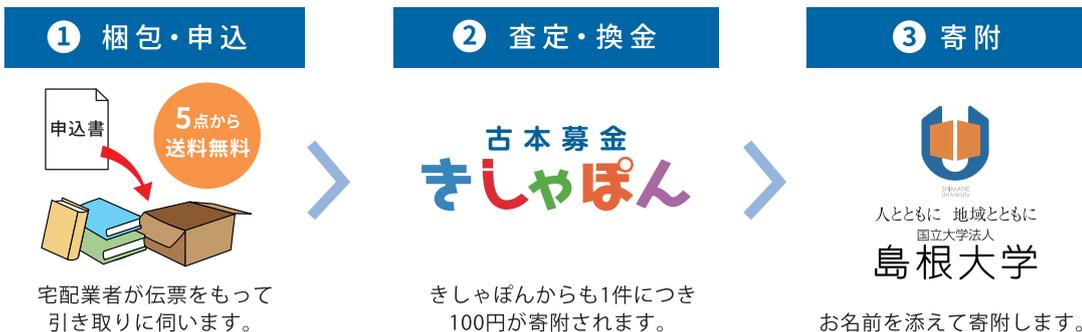
皆さまからのご寄附は本学の学生支援などに活用させていただいております。次世代を担う本学学生を育てるため、今後なお一層のお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

この度、新たに「古本募金」と「遺贈」による寄附制度を導入いたしました。ご希望の方にはパンフレットをお配りしておりますので、お気軽に以下の窓口までご請求ください。

「古本募金」について

「古本募金」とは、読み終えた本・DVD等をご提供いただくことで、その査定換金額が島根大学に寄附され、その寄附金を島根大学支援基金として活用させていただく寄附の方法です。申込受付から書籍等の査定・報告、および送金は「古本募金きしゃぼん」(運営:嵯峨野株式会社)が担当します。

ご不要になった本やDVD等で学生の学びを支援いただけませんか？



お電話をいただくだけで、
ご自宅等まで引き取りに伺います！

お問い合わせ・お申し込み

0120-29-7000

運営協賛: 古本募金きしゃぼん / 嵯峨野株式会社 (受付) 9~18時

※「島根大学に寄附したい」とお伝えください。

「遺贈」について

「遺贈」とは、遺言書により、ご自身の築き上げられた財産を公益団体や特定の人物などに贈与する寄附の方法です。

島根大学では、遺贈によるご寄附をお考えいただいている方のため、高度な専門性と豊富な経験を有する信託銀行等と提携し、その手続きの便宜を図ることとしました。この制度にご関心のある方は、支援基金担当までお気軽にお問い合わせください。



「島根大学支援基金」に関する
資料請求・お問い合わせ先

島根大学 支援基金担当

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL: 0852-32-6015 E-mail: sienkk@office.shimane-u.ac.jp